

## 1. 出席者紹介

### ◆<sup>おおきふさみ</sup>大城房美（筑紫女学園大学文学部教授）

ニューヨーク州立大学で Ph. D. を取得。

海外で広く受容されているマンガ文化とジェンダーの関わりについて、特に「女性」作家／読者／表現を中心として探求中。専門は比較文化・比較文学、女性学。日本マンガ学会九州マンガ交流部会、女性 MANGA 研究プロジェクト代表を務める。  
<主な著書、論文等>

『マンガは越境する』（世界思想社，2010）大城房美、一木順、本浜秀彦編

『『冬のソナタ』と日本の女性文化』『IMAGE & GENDER』 Vol.9（イメージ&ジェンダー研究会，2009）

“Beyond Shoujo, Blending Gender,” Comics Studies Reader (University of Minnesota Press, 2008)

### ◆<sup>ヒョジン</sup>金孝眞（韓国・高麗大学校日本研究センターHumanities Korea(HK)助教授）

ソウル大学で修士を、ハーバード大学で Ph. D. を取得。専門は文化人類学。

オタク文化を中心に、現代の大衆文化及びジェンダーの政治学、グローバリゼーションにおける文化ナショナリズムとネット文化を主な研究テーマとしている。

<主な著書、論文等>

『戦後日本、そして見知らぬ東アジア』（共著 2011）

“Crossing Double Borders: Korean Female Amateur Artists in the Globalization of Japanese Dōjin Culture” (2011)

「腐女子は語るることができるか？：オタク女子の発見」（2010）など

### ◆<sup>トウ</sup>涂銘宏（台湾・淡江大学英語学部助教授）

米国ウィスコンシン大学マディソン校にて Ph. D. を取得。専門は比較文学。

文学と芸術の相互関係、東アジアのポップカルチャー、とりわけ比較漫画研究に関心がある。

<主な著書、論文等>

“‘Silent Music’: Desiring-machine and Femininity in Music-Themed Comics” (International Journal of Comic Art. Fall/Winter, 2011),

"A Frankensteinian Gaze into Soseki (漱石) : Fujoshi (腐女子) Visual Rhetoric of Comics Kokoro (『こころ』) :” (British and American Literature Review, Taiwan Vol.14 June 2009)

“‘Stranger on a Train’: Denshaotoko (電車男) , Serialization, and Otaku (オタク) Cosmopolitanism.” (NTU Studies in Language and Literature. No. 19. June, 2008.)

◆<sup>F・S・c</sup> (シンガポール人マンガ家)

中学生時代から、「ドラゴンボール」「スラムダンク」など、日本やアメリカ合衆国のマンガに親しむ。16歳の頃から、新聞へ投稿するためにマンガを描き始める。シンガポールのグラフィックデザイン学校を卒業後、マルチメディアデザイナーとして会社勤務のかたわら、マンガを制作。

個性的作風のアーティストとして、徐々に知名度が上がる。

作風は先鋭的で、神経症的な描写と、日本のマンガに似たカワイイ絵柄、親しみやすい雰囲気をあわせもつ。幻想や悪夢の描写に優れ、日米のアーティストにファンが多い。

<主な作品>



『ナイトメア・アンド・フェアリーテール』

原作：セリーナ・バレンチノ

イラスト：FSc

刊行：スレイヴ・レイバー・グラフィックス

『クレアボヤンス』

太田出版のWEBコミック。単行本は  
2012年春に出版予定。

